

空港島及び空港対岸部に係る

平成20年度 環境監視結果年報  
(概要版)

平成21年10月

中部国際空港株式会社

愛 知 県



## はじめに

中部国際空港株式会社及び愛知県は、平成12年6月に「中部国際空港建設事業及び空港島地域開発用地埋立造成事業並びに空港対岸部埋立造成事業に係る工事中の環境監視計画」を策定し、これに基づく環境監視を平成12年7月～平成17年2月16日の間に実施してきた。

また、平成17年2月に「中部国際空港用地、空港島地域開発用地及び空港対岸部用地」（以下「空港島等」という。）の存在に伴う水質汚濁、海水の流れ等並びに中部国際空港の供用に伴う航空機騒音等の周辺地域に対する影響を把握し、必要に応じて適切な措置を講じることにより環境の保全を図ることを目的として、「空港島及び空港対岸部に係る環境監視計画」（以下「環境監視計画」という。）を策定し、平成17年2月17日からこの環境監視計画に基づき調査を実施している。

本書は、平成20年度（平成20年4月1日～平成21年3月31日）の空港島等の存在に係る調査結果（鳥類（カモメ類等水鳥・カワウ））及び空港の供用に係る調査結果（一般環境大気質、騒音、鳥類（タカ類等渡り鳥））を「①環境基準値等との比較」、「②過年度データとの比較」の2つの観点から、それぞれ整理を行い、これらにより、空港島等の存在並びに中部国際空港の供用が周辺地域に与える環境影響の程度を把握したものである。なお、補足調査として平成20年度に実施した水質、底質、汀線の調査結果についても併せてとりまとめた。

また、とりまとめにあたっては、財団法人中部空港調査会が設置する公正・中立の立場の「空港島及び対岸部の環境監視に関する検討委員会」において、科学的、客観的な検討・評価を受けている。

なお、本書でいう過年度調査結果とは、平成19年度までの調査結果であり、次のものをいう。

- (1)「中部国際空港建設事業及び空港島地域開発用地埋立造成事業に関する環境影響評価書（平成11年6月、中部国際空港株式会社、愛知県）」と「空港対岸部埋立造成事業に関する環境影響評価書（平成11年6月、愛知県）」（以下、これら2件の環境影響評価書を「評価書」という。）に記載されている平成4年度～平成10年度の調査結果（以下「評価書調査結果」という。）
- (2)平成11年～平成12年6月に実施した事前調査結果（以下「事前調査結果」という。）
- (3)平成12年度～平成19年度に中部国際空港株式会社、愛知県が実施した環境監視結果
- (4)気象庁、愛知県等が行った周辺地域の調査結果

また、存在後とは、平成14年4月（護岸が概成し西側護岸の一部を除き、汚濁防止膜を撤去した時）以後をいい、供用後とは平成17年2月17日（開港）以後をいう。



## 目 次

1 気象 .....	1
2 空港島等の存在に係る環境監視結果及び評価 .....	1
環境監視の内容 .....	1
鳥類（カモメ類等水鳥・カワウ） .....	2
3 中部国際空港の運用状況 .....	4
4 空港の供用に係る環境監視結果および評価 .....	4
環境監視の内容 .....	4
一般環境大気質 .....	5
騒音 .....	7
鳥類（タカ類等渡り鳥） .....	8
5 総合評価 .....	10
i 補足調査 .....	11
補足調査の内容 .....	11
水質 .....	11
底質 .....	13
汀線 .....	14



## 1 気象

平成 20 年度の苅屋局における気象調査結果では 5 月から 8 月にかけて南東及び東南東風が多かったが、年間を通じては西北西風が卓越し、月平均風速の最高値は、平成 21 年 1 月及び 3 月の 2.9m/s であった。

なお、気象庁による名古屋地方気象台、中部航空地方気象台、東海及び南知多地域観測所の気象調査結果では、平成 20 年度の年間平均気温は名古屋が平年値を 1.2℃、東海及び南知多が準平年値を 1.0℃及び 1.6℃上回った。平成 20 年度の年間降水量（合計値）は、名古屋が平年値と比べ、東海及び南知多が準平年値と比べて多かった。月間では、名古屋で平年値と比べ、東海及び南知多で準平年値と比べて、7 月が少なく、8 月、1 月が多かった。

平成 20 年度の中部航空地方気象台において、出現頻度が一番多かった北西風は全体の 18.3%を占めた。

また、航空機の運航への影響が大きい台風は、8 月に第 11 号、9 月に第 13 号が当該地域に接近・通過した。

## 2 空港島等の存在に係る環境監視結果及び評価

---

---

### 環境監視の内容

---

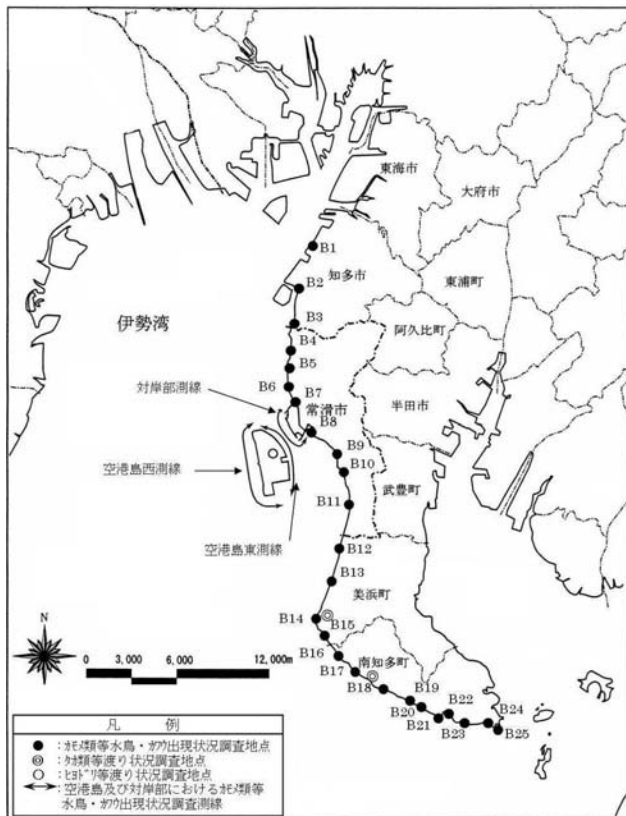
---

平成 20 年度に実施した環境監視の内容は次のとおりである。

#### 環境監視の内容(平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日)

調 査 項 目			調査地点等	調査頻度・時期
鳥類	カモメ類等 水鳥・カワウ	出現状況	知多半島西岸25地点、空港島2測線、空港対岸部1測線	年6回 (隔月)

## 鳥類（カモメ類等水鳥・カワウ）



＜鳥類の調査地点及び調査測線＞

旅鳥であるオオミズナギドリは9月にのみ確認され、出現数は4,709羽であった。留鳥であるカワウは1年を通じて確認され、年間最多の出現数は1月の1,372羽であった。冬鳥であるヒドリガモは11月～3月に確認され、年間最多の出現数は1月の720羽であった。冬鳥であるハマシギは5月及び11月～3月に確認され、年間最多の出現数は1月の434羽であった。冬鳥であるユリカモメは11月～3月に確認され、年間最多の出現数は3月の544羽であった。冬鳥であるセグロカモメは主に11月～3月に確認され、年間最多の出現数は3月の660羽であった。冬鳥であるウミネコは1年を通じて確認され、年間最多の出現数は9月の5,021羽、次いで7月の2,285羽であった。なお、ウミネコは愛知県では冬鳥とされているが、例年、秋に年間最多渡来数が確認される種となっている。夏鳥であるコアジサシは主に5月に確認され、5月の出現数は998羽であった。

### □環境監視結果

#### ● カモメ類等水鳥・カワウ出現状況

知多半島西岸25地点（B1～B25地点）における出現状況については、平成20年5月、7月、9月、11月、平成21年1月及び3月の6回の調査により6目8科39種の水鳥及び3目13科23種の陸鳥が確認された。絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律や環境省レッドリストなどの法規制またはそれに準ずる保護要件に該当する種として、カンムリカイツブリ、カワウ、ヒメウ、アオサギ、ヨシガモ、オナガガモ、シノリガモ、シロチドリ、ミユビシギ、オオソリハシシギ、コアジサシ、ミサゴが確認された。知多半島西岸25地点の月別合計では2,168～10,896羽の水鳥が確認された。また、平成20年度の計6回の調査による延べ出現個体数は、水鳥24,882羽、陸鳥2,409羽、計27,291羽であり、水鳥が全体の91.2%を占めた。

空港島2測線及び対岸部1測線における出現状況については、平成20年5月、7月、9月、11月、平成21年1月及び3月の6回の調査により6目8科28種の水鳥及び3目15科22種の陸鳥が確認された。絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律や環境省レッドリストなどの法規制またはそれに準ずる保護要件に該当する種として、カンムリカイツブリ、カワウ、アオサギ、シロチドリ、アカアシシギ、コアジサシ、ミサゴ、ハヤブサ、チョウゲンボウが確認された。空港島及び対岸部周辺の月別合計では、274～2,833羽の水鳥が確認された。また、計6回の調査による延べ出現個体数は、水鳥8,580羽、陸鳥967羽、計9,547羽であり、水鳥が全体の89.9%を占めた。

旅鳥であるオオミズナギドリは9月のみ確認され、出現数は1,097羽であった。留鳥であるカワウは1年を通じて確認され、



11月～3月が多く、年間の最多の出現数は11月の2,686羽であった。冬鳥であるハマシギは5月にのみ確認され、出現数は153羽であった。冬鳥であるウミネコは7月～3月に確認され、年間最多の出現数は9月の341羽であった。夏鳥であるコアジサシは主に5月に確認され、5月の出現数は270羽であった。

#### 口鳥類(カモメ類等水鳥・カワウ)の評価

知多半島西岸25地点(B1～B25)における平成4年度以降の調査において、主要な出現種になったことのある種の出現状況は以下のとおりである。

オオミズナギドリは平成20年度には9月にB13～B15を中心に多数確認された。旅鳥である本種は確認されない年も多い。

カワウは平成20年度には1年を通じて広い範囲で確認されており、過年度と比べて大きな変化はなかった。

ヒドリガモは平成20年度には11月～3月にB9、B10を中心に多数確認された。本種は平成11年以前にはあまりみられなかったが、平成12年1月以降、B9、B10を中心に多数の越冬個体が確認されている。

スズガモは平成19年度と同様に確認された個体数が少なかった。工事の進捗により対岸部内の閉鎖性水域が消滅したため、ここでの大群は確認されなくなった。

ユリカモメは平成20年度には11月と3月に比較的多く確認された。本種はこれまでに11月～3月に南部沿岸を中心に多数確認されている。

オオセグロカモメは平成20年度には確認された個体数が少なかった。本種はこれまで3月に南部沿岸を中心に多数確認されている。

ウミネコは平成20年度には9月にB12～B14を中心に多数確認された。本種はこれまで主に9月に南部沿岸で多数確認されている。

アジサシは平成20年度には確認された個体数が少なかった。旅鳥である本種については、調査日と渡来盛期とが重なるか否かにより、出現個体数が大きく変化すると考えられる。

コアジサシは平成20年度には主に5月に確認された。本種はこれまでに調査地点付近にコロニーが形成されたことにより、多数の個体が確認されている。

知多半島西岸25地点並びに空港島及び対岸部周辺における調査結果を合わせた知多半島西岸域での主要な水鳥の出現状況は以下のとおりである。

ヒドリガモ、スズガモ、ユリカモメ、オオセグロカモメ、アジサシ及びコアジサシは、平成20年度の知多半島西岸域において平成19年度以前と比べて大きな変動はみられなかった。

オオミズナギドリ及びカワウは、平成20年度には多数の個体が確認された。

ウミネコは、平成20年度には空港島及び対岸部周辺での個体数は少なく、大部分が知多半島西岸25地点で確認された。平成18年度には空港島で休息する大群が確認されたことがあったが、平成19年度以降はバードパトロールが強化され、空港島での個体数は減少している。

以上より、平成20年度の環境監視結果では、空港島等の存在による大きな変化はみられなかった。

### 3 中部国際空港の運用状況

平成20年4月～平成21年3月の中部国際空港の実績は、航空機の年間旅客数が約1,081万人、航空機の年間貨物取扱量が約16万トン、航空機の年間発着回数が約9万7千回であった。

### 4 空港の供用に係る環境監視結果および評価

---

---

#### 環境監視の内容

---

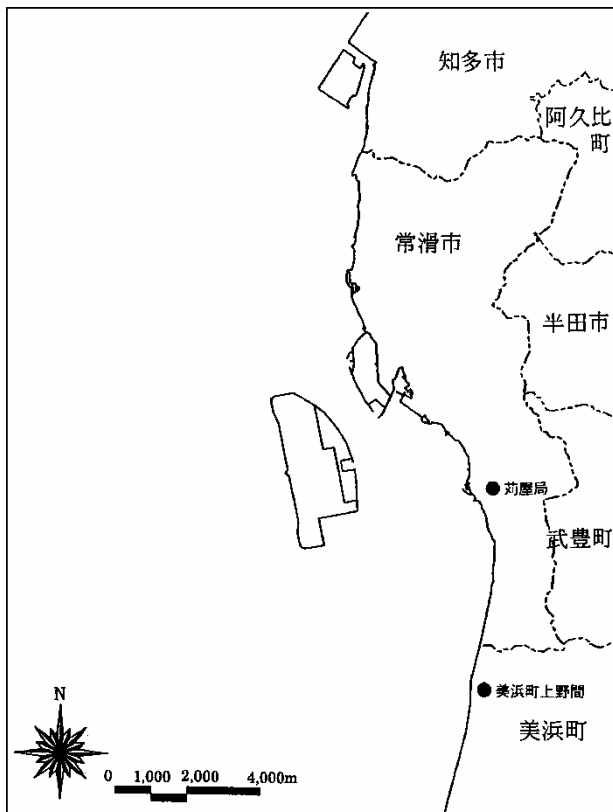
---

平成20年度に実施した環境監視の内容は次のとおりである。

#### 環境監視の内容（平成20年4月1日～平成21年3月31日）

調 査 項 目			調査地点等	調査頻度・時期
大気質	一般環境	風向、風速、気温、湿度、 NO <sub>x</sub> (NO、NO <sub>2</sub> )、SO <sub>2</sub> 、CO、SPM、O <sub>x</sub> 、HC	1地点	常時
		風向、風速、気温、湿度、 NO <sub>x</sub> (NO、NO <sub>2</sub> )、SO <sub>2</sub> 、CO、SPM、O <sub>x</sub> 、HC	1地点	年4回 (四季)
騒音	航空機騒音	常時監視	4地点	常時
		定期監視	10地点	年2回 (夏期・冬期)
	航空機による低周波音	4地点	年2回 (夏期・冬期)	
鳥類	タカ類等渡り鳥	渡りの状況	3地点	秋

## 一般環境大気質



＜一般環境大気質の調査地点＞

### □環境監視結果

二酸化窒素 ( $\text{NO}_2$ )、一酸化窒素 ( $\text{NO}$ )、窒素酸化物 ( $\text{NO}_x$ )、二酸化硫黄 ( $\text{SO}_2$ )、一酸化炭素 ( $\text{CO}$ )、浮遊粒子状物質 (SPM)、光化学オキシダント ( $\text{O}_x$ ) 及び炭化水素 (HC) について、苅屋局 (平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日) 及び美浜町上野間 (平成 20 年度春季、夏季、秋季及び冬季) において調査した結果は次のとおりである。

#### ● 二酸化窒素 ( $\text{NO}_2$ )

苅屋局において、日平均値の年間 98%値は 0.034ppm、1 時間値の最高値は 0.068ppm であった。

美浜町上野間において、日平均値の最高値は 0.028ppm、1 時間値の最高値は 0.042ppm であった。

#### ● 一酸化窒素 ( $\text{NO}$ )

苅屋局において、日平均値の年間 98%値は 0.023ppm、1 時間値の最高値は 0.082ppm であった。

美浜町上野間において、日平均値の最高値は 0.025ppm、1 時間値の最高値は 0.073ppm であった。

#### ● 窒素酸化物 ( $\text{NO}_x$ )

苅屋局において、日平均値の年間 98%値は 0.056ppm、1 時間値の最高値は 0.134ppm であった。

美浜町上野間において、日平均値の最高値は 0.052ppm、1 時間値の最高値は 0.099ppm であった。

#### ● 二酸化硫黄 ( $\text{SO}_2$ )

苅屋局において、日平均値の 2%除外値は 0.005ppm、1 時間値の最高値は 0.039ppm であった。

美浜町上野間において、日平均値の最高値は 0.007ppm、1 時間値の最高値は 0.012ppm であった。

#### ● 一酸化炭素 ( $\text{CO}$ )

苅屋局において、日平均値の 2%除外値は 0.7ppm、1 時間値の最高値は 1.7ppm であった。

美浜町上野間において、日平均値の最高値は 0.7ppm、1 時間値の最高値は 0.9ppm であった。

#### ● 浮遊粒子状物質 (SPM)

苅屋局において、日平均値の 2%除外値は 0.062mg/m<sup>3</sup>、1 時間値の最高値は 0.177mg/m<sup>3</sup> であった。

美浜町上野間において、日平均値の最高値は 0.051mg/m<sup>3</sup>、1 時間値の最高値は 0.123mg/m<sup>3</sup> であった。

### ● 光化学オキシダント (Ox)

苅屋局において、昼間の年平均値は0.037ppm、昼間の1時間値の最高値は0.129ppmであった。

美浜町上野間において、昼間の期間平均値は0.035ppm、昼間の1時間値の最高値は0.099ppmであった。

### ● 炭化水素 (HC)

苅屋局において、非メタン炭化水素 (NMHC) の6時～9時3時間平均値の最高値は0.59ppmC、最低値は0.00ppmCであった。メタン (CH<sub>4</sub>) の6時～9時3時間平均値の最高値は2.33ppmC、最低値は1.74ppmCであった。全炭化水素 (THC) の6時～9時3時間平均値の最高値は2.82ppmC、最低値は1.76ppmCであった。

美浜町上野間において、非メタン炭化水素 (NMHC) の6時～9時3時間平均値の最高値は0.49ppmC、最低値は0.00ppmCであった。メタン (CH<sub>4</sub>) の6時～9時3時間平均値の最高値は1.98ppmC、最低値は1.80ppmCであった。全炭化水素 (THC) の6時～9時3時間平均値の最高値は2.46ppmC、最低値は1.86ppmCであった。

### □ 一般環境大気質の評価

平成20年度環境監視結果を環境基準値及び指針値と比較した結果、常時監視を行っている苅屋局では、二酸化窒素 (NO<sub>2</sub>)、二酸化硫黄 (SO<sub>2</sub>)、一酸化炭素 (CO) 及び浮遊粒子状物質 (SPM) のいずれについても環境基準値及び指針値を下回っていた。光化学オキシダント (Ox) については環境基準値を上回っていた。

また、定期監視を行っている美浜町上野間では、二酸化窒素 (NO<sub>2</sub>)、二酸化硫黄 (SO<sub>2</sub>)、一酸化炭素 (CO) 及び浮遊粒子状物質 (SPM) について、環境基準値及び指針値を下回っていた。光化学オキシダント (Ox) については環境基準値を上回っていた。

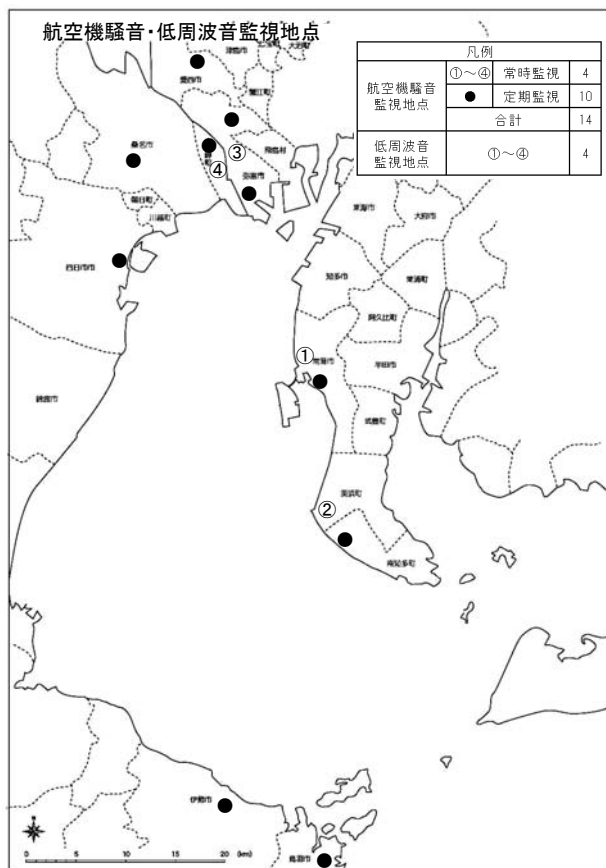
平成20年度環境監視結果を過年度データと比較した結果、常時監視を行っている苅屋局では、二酸化窒素 (NO<sub>2</sub>)、二酸化硫黄 (SO<sub>2</sub>)、一酸化炭素 (CO) 及び浮遊粒子状物質 (SPM) は、平成17年度～平成19年度に引き続き空港の供用前とほぼ同様であった。

これら一般環境大気質の監視結果を愛知県が実施した周辺一般環境大気測定局における測定結果と比較した結果、ほぼ同様の傾向であった。

以上より、平成20年度の環境監視結果では、空港の供用による影響はほとんど認められなかった。

# 騒音

## ◆ 航空機騒音



＜航空機騒音（常時監視、定期監視）及び低周波音の調査地点＞

### □ 環境監視結果

#### ● 常時監視結果

平成 20 年度の WECPNL 年間値は、常滑市立鬼崎中学校では 59、美浜町野間（ちびっこ広場）及び弥富市立大藤小学校では 56、木曾岬町東部公民館では 57 であった。

平成 20 年度の WECPNL の月間値は、常滑市立鬼崎中学校では 5 月～9 月の間が 56～58 と比較的 low、その他の月は 59～60 と若干高めであった。美浜町野間（ちびっこ広場）では 5 月～9 月の間が 53～54 と若干 low、その他の月は 55～57 と若干高めであった。弥富市立大藤小学校では 11 月～3 月が 42～54 と low、その他の月は 57～60 と高めであった。木曾岬町東部公民館では弥

富市立大藤小学校と同様の傾向がみられ、11 月～3 月が 42～55 と low、その他の月が 58～61 と高めであった。

#### ● 定期監視結果

定期監視 1 回目（平成 20 年 6 月 10 日～6 月 27 日）の WECPNL は 38～59 の範囲であった。

定期監視 2 回目（平成 21 年 2 月 7 日～2 月 24 日）の WECPNL は 33～51 の範囲であった。

WECPNL の年間値は 36～56 の範囲にあった。

### □ 航空機騒音の評価

平成 20 年度の常時監視 4 地点の WECPNL 年間値は 56～59 の範囲にあり、環境基準値（I 類型）と比較した結果、全調査地点で環境基準値を下回っていた。また、過年度データと比較した結果、WECPNL 年間値は、4 地点とも同程度で推移してきていたが、平成 20 年度は若干低かった。

平成 20 年度の定期監視 10 地点の WECPNL 年間値は 36～56 の範囲にあり、環境基準値（I 類型）と比較した結果、全調査地点で環境基準値を下回っていた。また、過年度データと比較した結果、WECPNL 年間値は、ほとんどの調査地点で同程度か若干低かった。

以上より、平成 20 年度の常時監視及び定期監視結果は全調査地点で環境基準値を下回っており、過年度と比べ大きな変化はみられなかった。

## ◆ 航空機による低周波音

### □ 環境監視結果

平成 20 年度は 7 月と 10 月に常時監視の 4 地点で調査を行い、その結果は、音圧レベル（1～100Hz 帯域）のパワー平均値では

73～80dB の範囲にあり、G 特性音圧レベルのパワー平均値では 71～82dB の範囲にあった。

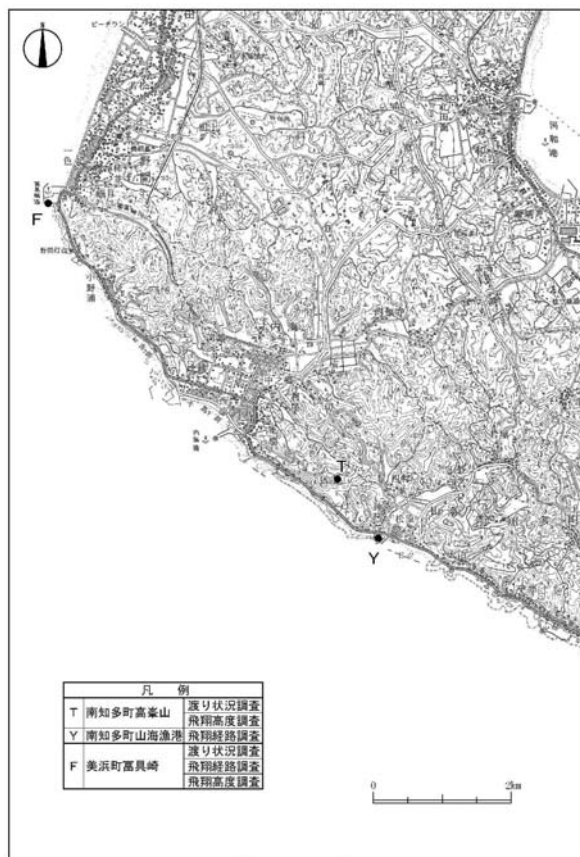
#### □航空機による低周波音のまとめ

平成 20 年度の環境監視結果と過年度データとの比較をした結果、ほぼ同様の値で

推移していた。

なお、低周波音について、現時点では環境基準等の明確な評価基準は定められていない。

## 鳥類（タカ類等渡り鳥）



<タカ類の調査地点>

#### □環境監視結果

##### ● タカ類の渡り状況

平成 20 年度のタカ類の出現状況について、9 月 26 日～10 月 11 日の調査で、南知多町高峯山及び美浜町富具崎において、それぞれ 10 種のタカ類が確認された。出現個体数は高峯山で 1,933 羽、富具崎で 1,799 羽であった。いずれの調査地点でもサシバが最も多く、高峯山で 1,279 羽（66.2%）、富具崎で 1,410 羽（78.4%）であった。ま

た、サシバに次いでハチクマが多数出現し、高峯山で 409 羽（21.2%）、富具崎で 313 羽（17.4%）であった。

平成 20 年度のタカ類のレーダー観測による飛翔軌跡について、山海漁港周辺で 10 月 2 日～3 日に行った調査で 38 例、また富具崎周辺で 10 月 5 日～7 日に行った調査で 30 例の飛翔軌跡が観測された。

美浜町富具崎周辺から南知多町豊浜周辺までの伊勢湾海上を三重県側へ渡るタカ類の飛翔経路は、主に西北西方向から南西方向にかけて散開する状況であった。なお、タカ類と航空機の交差例（交差：レーダー画面上でのタカ類エコーと航空機エコーの重なり）や接近例が 14 例観測され、一部では飛翔方向の変化や飛翔速度の低下がみられた。

平成 20 年度のレーザー測遠機による飛翔高度帯別観測について、高峯山周辺で 10 月 2 日～3 日に行った調査で 211 例、また富具崎周辺で 10 月 5 日～7 日に行った調査で 69 例が観測された。高峯山周辺で得られた飛翔高度の観測値は 86～975m であり、最多高度帯は 150～200m 帯であった。また、富具崎周辺で得られた飛翔高度の観測値は 4～508m の範囲であり、最多高度帯は 100～200m 帯であった。

なお、北向き運用時の着陸機的美浜町富具崎西側付近での飛行高度は約 480m である。

● ヒヨドリ等の渡り状況



<ヒヨドリ等渡り鳥の調査地点>

平成 20 年度の目視観測によるヒヨドリ等渡り鳥の出現状況について、10 月 13 日～19 日の空港島における観測で渡りの途中と判断されたヒヨドリ等の鳥類は、4 目 6 科 8 種であった。出現個体数は合計 9,507 羽で、種別にみると最も多く出現したヒヨドリは 9,251 羽 (97.3%) であった。また、ヒヨドリ等の渡りは、朝 6 時～10 時の間に多かった。

目視による飛翔経路の観察では、飛翔方向は西方向が 4,735 羽 (49.8%) と最も多く、南西方向が 1,470 羽 (15.5%) でこれに次いだ。

□鳥類(タカ类等渡り鳥)の評価

平成 20 年度のタカ類の出現状況では、南知多町高峯山において 10 種、美浜町富具崎においても 10 種のタカ類が確認された。いずれの調査地点もサシバが最も多く、ハチクマがこれに次いで多数出現した。

タカ類の美浜町富具崎周辺から南知多町豊浜周辺までの伊勢湾海上を三重県側へ渡る飛翔経路は、主に西北西方向から南西方向にかけて散開する状況であった。

タカ類の飛翔高度は、高峯山周辺で最多高度帯が 150～200m であり、富具崎周辺では 100～200m であった。

ヒヨドリ等渡り鳥の出現状況で、空港島において渡りの途中と判断された鳥類は 4 目 6 科 8 種であり、最も多く出現した種はヒヨドリであった。これらの群れの飛翔方向は西方向が最も多かった。

平成 20 年度の環境監視結果を過年度データと比較したところ、タカ類の高峯山における飛翔経路及び飛翔高度については大きな変化はなく、富具崎での観測でも、特異日のあった平成 16 年度と、強風のため飛翔高度が低かった平成 18 年度を除いてほぼ同様な傾向であった。出現個体数については供用前と比べ高峯山、富具崎ともにやや多かった。

また、ヒヨドリ等渡り鳥の出現個体数は、年度により変動が大きく、平成 20 年度は比較的多かった。

以上より、平成 20 年度の環境監視結果では、空港の供用による影響はほとんど認められなかった。

## 5 総合評価

### (1) 空港島等の存在に係る環境監視結果

#### ア 過年度データとの比較

鳥類（カモメ類等水鳥・カワウ）について、過年度データとの比較をした結果、環境監視結果では、空港島等の存在による大きな変化はみられなかった。

### (2) 空港の供用に係る環境監視結果

#### ア 環境基準値等との比較

一般環境大気質については環境基準値や指針値と、航空機騒音については環境基準値と比較した結果、環境監視結果は、次の場合を除いて環境基準値または指針値以下であった。

- ・ 常時監視局である苅屋局並びに定期監視を行っている美浜町上野間において、光化学オキシダント（Ox）が環境基準値を上回っていた。この監視結果を愛知県が実施した周辺の一般環境大気測定局における測定結果と比較した結果、ほぼ同様の傾向であった。

#### イ 過年度データとの比較

空港の供用に係る全ての項目について、過年度データとの比較をした結果、環境監視結果は、ほとんど変化がなかった。

### (3) まとめ

平成 20 年度の環境監視結果では、空港島等の存在及び空港の供用に伴う環境への影響はほとんど認められなかった。



## i 補足調査

### 補足調査の内容

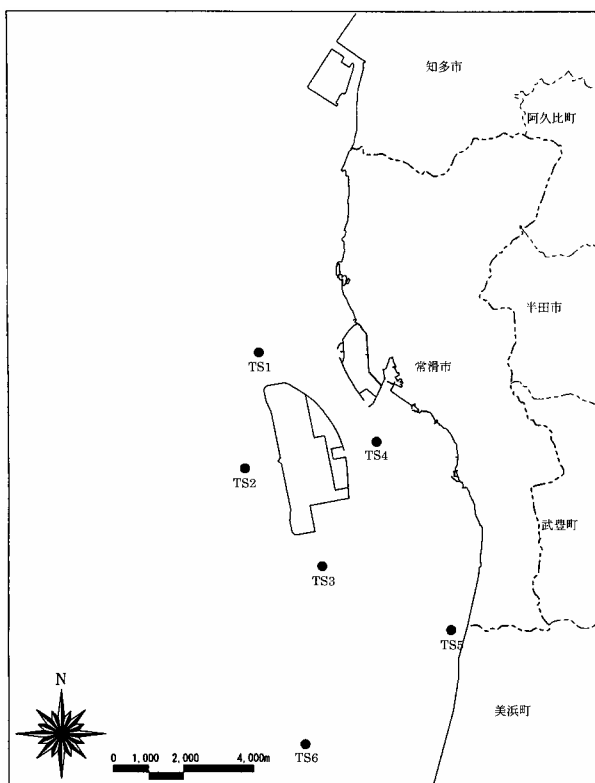
平成 20 年度に実施した補足調査の内容は次のとおりである。

#### 補足調査の内容（平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日）

調 査 項 目		調査地点等	調査頻度・時期
水質 <sup>注</sup>	水温、塩分、濁度、透明度、pH、DO、SS、COD、T-N、NH <sub>4</sub> -N、NO <sub>2</sub> -N、NO <sub>3</sub> -N、T-P、PO <sub>4</sub> -P、クロロフィルa	6点[2層]	年4回 (四季)
底質	泥温、粒度分布、含水率、pH、強熱減量、COD、全硫化物、T-N、T-P	6点	年2回 (夏期・冬期)
汀線		大野～野間	年1回

注. 水質調査の水深5m以浅の調査点は、1層のみの調査である。

## 水質



<水質の調査点>

### □補足調査結果

#### ● 水温

平成 20 年 5 月、8 月、11 月、平成 21 年

2 月の水温は表層において 9.1～28.1℃、底層において 10.0～26.2℃の範囲であった。

#### ● 塩分

平成 20 年 5 月、8 月、11 月、平成 21 年 2 月の塩分は表層において 25.97～32.13、底層において 27.39～33.43 の範囲であった。

#### ● 濁度

平成 20 年 5 月、8 月、11 月、平成 21 年 2 月の濁度は表層において 0.9～10.4 度、底層において 0.8～8.4 度の範囲であった。

#### ● 透明度

平成 20 年 5 月、8 月、11 月、平成 21 年 2 月の透明度は 2.2～9.9m の範囲であった。

#### ● pH

平成 20 年 5 月、8 月、11 月、平成 21 年 2 月の pH は表層、底層ともに 8.0～8.5 の範囲であった。

- 溶存酸素量 (DO)

平成 20 年 5 月、8 月、11 月、平成 21 年 2 月の DO は表層において 5.3~9.9mg/L、底層において 3.2~8.9mg/L の範囲であった。

- 浮遊物質量 (SS)

平成 20 年 5 月、8 月、11 月、平成 21 年 2 月の SS は表層において 0.5~3.2mg/L、底層において 0.8~4.3mg/L の範囲であった。

- 化学的酸素要求量 (COD)

平成 20 年 5 月、8 月、11 月、平成 21 年 2 月の COD は表層において 1.1~3.6mg/L、底層において 1.1~3.2mg/L の範囲であった。

- 全窒素 (T-N)

平成 20 年 5 月、8 月、11 月、平成 21 年 2 月の T-N は表層において 0.18~0.53mg/L、底層において 0.26~0.41mg/L の範囲であった。

- 全燐 (T-P)

平成 20 年 5 月、8 月、11 月、平成 21 年 2 月の T-P は表層において 0.018~0.064mg/L、底層において 0.024~0.057mg/L の範囲であった。

- アンモニア態窒素 (NH<sub>4</sub>-N)

平成 20 年 5 月、8 月、11 月、平成 21 年 2 月の NH<sub>4</sub>-N は表層において <0.01~0.05mg/L、底層において <0.01~0.04mg/L の範囲であった。

- 亜硝酸態窒素 (NO<sub>2</sub>-N)

平成 20 年 5 月、8 月、11 月、平成 21 年 2 月の NO<sub>2</sub>-N は表層において <0.005~0.035mg/L、底層において <0.005~0.034mg/L の範囲であった。

- 硝酸態窒素 (NO<sub>3</sub>-N)

平成 20 年 5 月、8 月、11 月、平成 21 年 2 月の NO<sub>3</sub>-N は表層において <0.01~0.17mg/L、底層において <0.01~0.15mg/L の範囲であった。

- オルトリン酸態燐 (PO<sub>4</sub>-P)

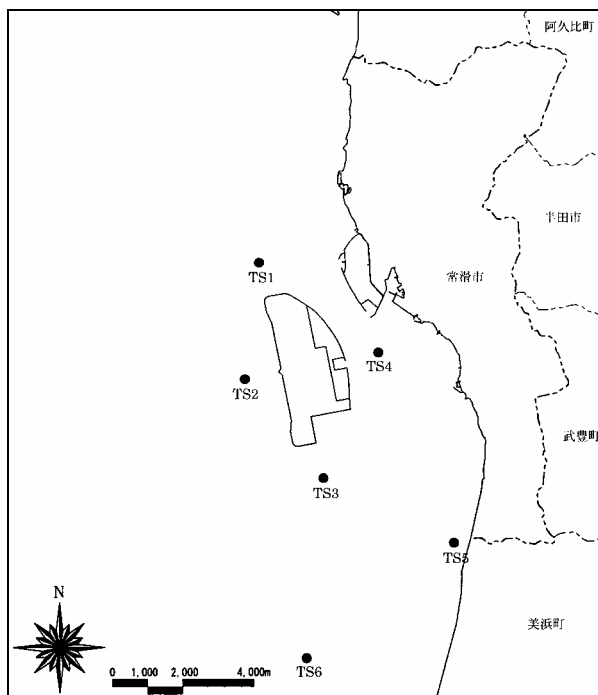
平成 20 年 5 月、8 月、11 月、平成 21 年 2 月の PO<sub>4</sub>-P は表層において <0.003~0.048mg/L、底層において <0.003~0.045mg/L の範囲であった。

- クロロフィル *a*

平成 20 年 5 月、8 月、11 月、平成 21 年 2 月のクロロフィル *a* は表層において 0.5~12.2μg/L、底層において 0.7~7.3μg/L の範囲であった。

平成 20 年度の補足調査結果を平成 19 年度までの環境監視結果と比較すると、各項目とも概ね過去の変動の範囲内であった。

## 底質



<底質の調査点>

### □補足調査結果

#### ● 粒度組成

平成 20 年 8 月は、粗砂分が 1～25%、細砂分が 6～82%、シルト・粘土分が 4～93%であった。平成 21 年 2 月は、粗砂分が 1～28%、細砂分が 2～82%、シルト・粘土分が 3～97%であった。

#### ● 含水率

平成 20 年 8 月は、20.4～61.8%、平成 21 年 2 月は、21.7～62.2%であった。

#### ● pH

平成 20 年 8 月は、7.8～8.2、平成 21 年 2 月は、8.0～8.5 であった。

#### ● 強熱減量

平成 20 年 8 月は、1.0～8.3%、平成 21 年 2 月は、0.8～7.3%であった。

#### ● 化学的酸素要求量 (COD)

平成 20 年 8 月は、1.1～11.8mg/g、平成 21 年 2 月は、1.9～11.7mg/g であった。

#### ● 全硫化物

平成 20 年 8 月は、0.03～0.44mg/g、平成 21 年 2 月は、0.01～0.41mg/g であった。

#### ● 全窒素 (T-N)

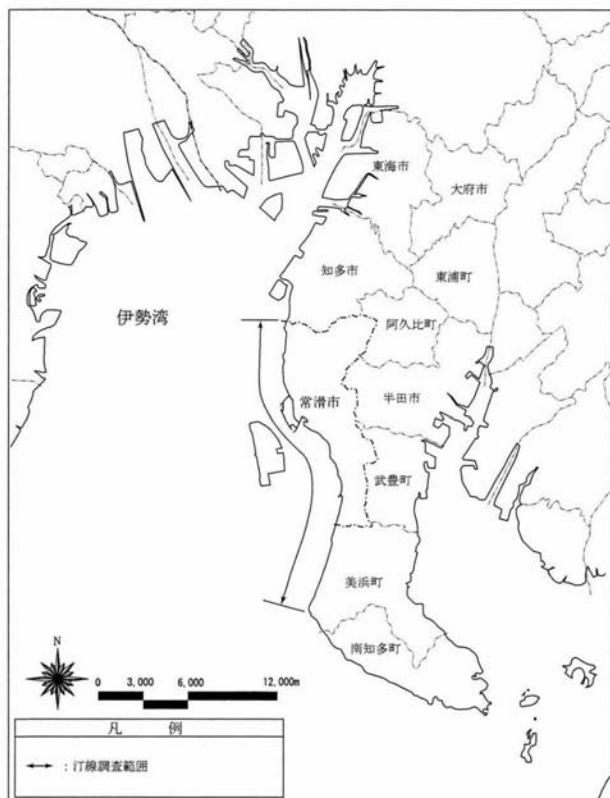
平成 20 年 8 月は、0.14～2.15mg/g、平成 21 年 2 月は、0.18～2.11mg/g であった。

#### ● 全燐 (T-P)

平成 20 年 8 月は、0.08～0.66mg/g、平成 21 年 2 月は、0.09～0.65mg/g であった。

平成 20 年度の補足調査結果を平成 19 年度までの環境監視結果と比較すると、各項目とも概ね過去の変動の範囲内であった。

## 汀線



<汀線の調査範囲>

### □補足調査結果

平成 20 年 6 月 16 日～7 月 6 日に、大野～野間の 6 区間 102 測線の測量調査を行った。

平成 19 年度までの環境監視結果においては、台風等自然現象や突堤等の工事等が原因と考えられる変化が一部でみられたが、平成 20 年度の補足調査では、汀線は概ね安定しており大きな変化はみられなかった。



平成21年10月発行

中部国際空港株式会社

業務推進本部 経営企画部 空港計画グループ

愛知県

企業庁 企業立地部 工務課